

美術館だより

Contents

- 1 企画展「英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」より (近代美術館)
- 2-3 企画展紹介「英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」 (近代美術館)
- 4 企画展紹介「水底に群れ、水面に集う」 (五浦美術館)
- 5 企画展紹介「西田俊英展 不死鳥」 (五浦美術館)
- 6 企画展紹介「石岡瑛子Iデザイン」 (近代美術館)
- 7 事業レポート(つくば美術館)
- 8-9 企業パートナーシップ事業
- 10 インフォメーション

茨城県近代美術館
「英国キュー王立植物園
おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」より



ウィリアム・フッカー《リンゴ「デヴォンシャー・カレンデン」》1818年
スティップル・エンブレイヴィング、アクアチント、手彩色／紙
個人蔵 Photo Michael Whiteway

ウィリアム・フッカー (1779-1832) はロンドン園芸協会 (現王立園芸協会 [RHS]) お抱えの画家で、同協会のために花や果物の原画や手彩色の版画を制作し、特に果物画に優れた才能を発揮しました。

本作は、フッカーの著作『ポモナ・ロンディネンシス*』からの1点です。同書は彼の代表作で、ロンドン近辺で栽培されている果物49品種をとり上げて、それぞれに解説と彩色図版を付した豪華な書籍です。「デヴォンシャー・カレンデン」は、デヴォンシャー (イギリス南西部、現デヴォン) の広範囲で栽培されていたリン

ゴで、美しい外見と素晴らしい味は料理用ではなくデザート向きだと紹介されています。

本作をはじめ、『ポモナ・ロンディネンシス』に収められた図版はどれもフッカーの卓越した技量を示しており、その描写は果実の立体感のみならず重みまで感じさせます。そして、科学的、学問的に正確で有用というだけではなく、見る者に味や匂いを想像させる瑞々しさを兼ね備えています。

*ポモナはローマ神話の果樹と果実の女神の名で、「ポモナ・ロンディネンシス」は「ロンドンの果物」という意味。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

企画展紹介 英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

会 期：2024(令和6)年2月23日(金・祝)～4月14日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：3月18日(月)、3月25日(月)、4月1日(月)、4月8日(月)
 水戸の梅まつり期間中(2/10～3/17)は、本展は無休
入 場 料：一般1,210(1,100)円/満70歳以上600(550)円/
 高大生1,000(870)円/小中生490(370)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方は無料
 ※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料
 ※3月16日(土)は満70歳以上の方は無料
 ※1月24日(水)から3月31日(日)まで、スマートフォンでご利用
 可能な地域・観光型MaaS「ひたちのくに紀行」にて電子チ
 ケットを販売(団体料金)。
主 催：茨城県近代美術館
後 援：ブリティッシュ・カウンシル/水戸市/朝日新聞水戸総局/
 茨城新聞社/NHK水戸放送局/産経新聞社水戸支局/
 東京新聞水戸支局/日本経済新聞社水戸支局/
 毎日新聞水戸支局/読売新聞水戸支局/LuckyFM茨城放送
協 力：日本航空
特別協力：英国キュー王立植物園
企画協力：プレントラスト

展覧会の概要

花や薬草など植物を緻密に描いて記録するボタニカル・アート(植物画)。18世紀に王室の宮殿に併設した庭園として始まった英国キュー王立植物園は、世界有数の植物や菌類の研究機関でもあり、数世紀にわたって世界中で植物を採集し、その情報をボタニカル・アートとして記録・蓄積してきました。本展では22万点に及ぶボタニカル・アートのコレクションを誇るキュー王立植物園の協力のもと、野菜や果物、茶、コーヒー、ハーブ、スパイスといった食用の植物を描いたボタニカル・アートを紹介します。そして、ティー・セットやカトラリー、家具、18世紀頃の古いレシピやヴィクトリア朝の主婦のバイブル『ビートン夫人の家政読本』(イザベラ・ビートン著、1861年刊)などの資料とともに、18～19世紀に貿易大国として世界に君臨したイギリスの歴史や食文化、生活様式をひもときます。本展では、食を彩る植物の様々な「ものがたり」をたどりながら、科学と芸術の融合であり、目のご馳走でもある「おいしいボタニカル・アート」の豊かな世界をお楽しみいただきます。

みどころ

①ボタニカル・アートの魅力—サイエンスとアート、 理性と感性のケミストリー

花や植物を緻密に描くボタニカル・アートは、薬草学や植物学の科学的な研究を目的として、カメラがない時代に植物を視覚的に記録するツールとして発展しました。ボタニカル・アートは、まずは科学的な正確さが求められますが、「絵」として鑑賞に堪えうる高い芸術性を備えたものが少なくありません。優れた植物画家が精魂込めて描いたボタニカル・アートは、科学的客観性においても芸術的香気においても観る者を驚嘆させ、感動させることが可能なのです。



ジョゼフ・ヤコブ・リッター・フォン・プレング
《カリフラワーズ》1788～1803年頃
キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW



フィリス・ラル(ライ豆) 1809年
キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW



ウィリアム・フッカー
《モモ「ラ・ノブレス」》1818年
個人蔵 Photo Michael Whiteway



ウィリアム・フッカー
《アプリコット(アンズ)「ムア・パーク」》
1818年 個人蔵 Photo Michael Whiteway



キュー王立植物園 ©RBG KEW

英国キュー王立植物園とは?

1841年に開園したキュー王立植物園(Royal Botanic Gardens, Kew)はイギリス王室ゆかりの庭園であると同時に、植物学の分野においては世界屈指の研究機関でもあります。ロンドン南西部に広がる132haの広大な敷地内には3万種以上の植物が植えられ、約22万点のボタニカル・アート、700万点以上の植物標本という膨大なコレクションを収蔵しています。現在、同園は年間200万人以上の人々が訪れる、名実ともに世界最大級の植物園であり、2003年にはユネスコ世界遺産に登録されています。

ボタニカル・アートというともまず花を思い浮かべる方が多いと思いますが、本展では、野菜や果物、茶、コーヒー、ハーブ、スパイスなど、食用になる植物をとり上げたボタニカル・アートに焦点を当て、華やかな花の絵とはひと味もふた味も異なる「おいしいボタニカル・アート」の魅力を紹介いたします。人は何かを「おいしい」と感じる時、味覚だけではなくさまざまな感覚（嗅覚、視覚、触覚、聴覚）を通して情報を受け取って判断しています。本展でご覧いただくボタニカル・アートも、単に食材の色や形を伝えるだけではなく、見ている人にその味や匂い、舌触りや歯ごたえ、食べた時の音を想像させ、視覚以外のさまざまな感覚を刺激してくれることでしょう。細部まで科学的に正確でありながら、生き生きと瑞々しく、私たちの五感に訴えかけてくる「おいしそう」なボタニカル・アート——手練れの植物画家たちの妙技をぜひじっくりとご覧ください。



無名の北インドの画家、もしくは（おそらく）中国の画家
（過去にジャネット・ハットン [1810年代に活躍] の作品とみなされる）
《カカオ》1810年頃 キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW



おそらくインドの画家（ジャネット・ハットン
[1810年代に活躍] の作品とみなされる）
《コショウ》1810年頃
キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW

②食と植物がものがたるイギリスの歴史と文化

紅茶が国民的飲料になる以前にイギリスで一世を風靡したコーヒー・ハウス（コーヒー）、紅茶大国イギリスの誕生と優雅なアフタヌーン・ティー文化（チャの木）、イギリスとボルドー・ワインとの関係（ブドウ）など、イギリスは食と植物にまつわる興味深いストーリーに事欠きません。古くからイギリスで愛されてきた野菜や果物から、貿易大国として世界に進出していく過程で入手した植物まで、イギリスの社会や世界の歴史を動かしてきた様々な

植物のものがたりを紹介します。



ジョゼフ・ヤコブ・リッター・フォン・プレング
《コーヒーの木》1788～1803年頃
キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW



クリストファー・ドレッサー（デザイン）、
ミントン《コーヒーカップ&ソーサー》
1875年頃 個人蔵 Photo Michael Whiteway



ロバート・ヘンネル3世《ティーポット・セット》1861年 個人蔵 Photo Michael Whiteway

③イギリスのティー・タイム&食卓の風景

ジョージ王朝時代（1714～1837）のティー・セッティングや、続くヴィクトリア朝のダイニング・テーブルの再現展示を行います。中産階級が台頭し、女性たちを中心に家庭でお茶を飲む習慣が広まった時期のティー・セッティングや、器、カトラリー、グラス等、それぞれのテーブルウェアの個性を活かした豪華なテーブル・セッティングをご覧ください。産業革命を経て大英帝国として繁栄を極めていく時代の喫茶や食の風景を身近に感じていただけることでしょう。また、紅茶がより広く国中に普及し、人々が生活の中に美を求めるようになったアーツ・アンド・クラフツ運動の時代（19世紀後半～20世紀前半）の喫茶の雰囲気伝えるティー・セッティングもあわせてご覧ください。

なお、本展では、ティー・セッティング、テーブル・セッティングのコーナー

とともに、一部の作品を撮影いただけます。展示会の思い出を是非お手元のスマートフォンやカメラに収めてお持ち帰りください。



ヴィクトリア朝のダイニング・テーブル・セッティングの再現

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

企画展紹介 みな ぞこ みな も 水底に群れ、水面に集う

会 期：2024(令和6)年2月17日[土]～4月14日[日]
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円／
 高大生210(150)円／小中生150(100)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方は無料
 ※3月30日[土]を除く土曜日は高校生以下は無料
 ※2月17日[土]は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

水鳥、魚、水棲生物などへ注がれる画家たちの眼差しをたどる展覧会を開催いたします。

身近な魚類や目にする機会の多い水鳥などは、日本美術において古くから画題となってきましたが、明治時代以降の水族館の実現、また写真や映像技術の発達などによる新しい視覚体験により、画家たちは更なる多様な水棲生物を描きました。一方で、近代工業の発展と都市開発は人間の生活から自然を遠ざけました。失われていく自然の中でたくましく生きる生物に対して、画家たちは特別な眼差しを注ぎ、ときに畏敬の念すら抱いています。

本展では、茨城県近代美術館の所蔵作品を中心に、横山大観や木村武山など五浦の作家をはじめ、河童など自

然の中に住む精霊たちを描いた小川芋銭、霞ヶ浦とそこに育まれる生命を描き続けた小林巢居人・恒岳などによる日本画を展示します。

みどころ

- ①水鳥、魚、水棲生物などを描いた日本画24点を紹介します。茨城の田園や水郷、そこに育まれる命を描いた小林巢居人・恒岳親子の作品からは、水辺の生き物を愛した二人のあたたかな眼差しが伝わります。
- ②小川芋銭は、河童など自然の中に住む精霊たちをユーモラスに描いた画家です。本展では、代表作の《水魅戯》をはじめ、河童を様々な視点から描いた「河童百図」などから厳選した芋銭の作品計7点を紹介します。
- ③現在活躍中の作家、木下千春と松岡歩の初公開を含む新作・近作を紹介いたします。木下千春の4作品にわたる連作「夜行絵図」は、海底に潜む生き物たちを幻想的に描いた大作です。本展ではこのうち、《夜行》と《闇》の2作品を紹介します。柔らかな筆致で愛らしい動物を描く松岡歩は、本展のために新作を出品します。初公開となる作品をぜひご覧ください。
- ④本展出品作家・松岡歩によるアーティストトークを3月30日(土)に開催します。作品制作の裏側や作品に込めた想いを聞くことができる貴重な機会です。

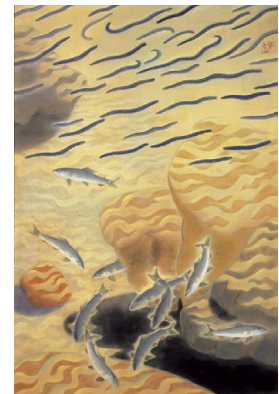
[天心記念五浦美術館 学芸員 木澤沙羅]



横山 大観《秋》1899年頃



小川 芋銭《水魅戯》1923年



小林 巢居人《鮎》1949年



小林 恒岳《越寒》1983年



松岡 歩《群生》2014年



木下 千春《渦巻く》2019年

全て茨城県近代美術館蔵

会 期：2024(令和6)年4月20日[土]～6月23日[日]
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日(ただし4月29日[月・祝]、5月6日[月・振]は開館。)
 入 場 料：一般840(730)円/満70歳以上420(360)円/
 高大生630(520)円/小中生320(210)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方は無料
 ※土曜日は高校生以下は無料
 ※6月1日[土]は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県天心記念五浦美術館
 企画協力：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

展覧会の概要

日本美術院同人、日本芸術院会員の西田俊英は、昨年の武蔵野美術大学退任記念展に《不死鳥》を発表して話題を集めました。2022年より約一年間、屋久島に滞在して描き始めた本作は全長90メートルを越す大作となります。

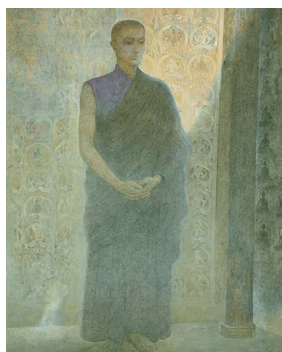
西田が世界自然遺産として知られる屋久島に魅了されたのは、その豊かな原生林に象徴されるように、森林が人間にとってかけがえのない存在で、その貴重な自然、



《不死鳥》部分 2022年～ 個人蔵



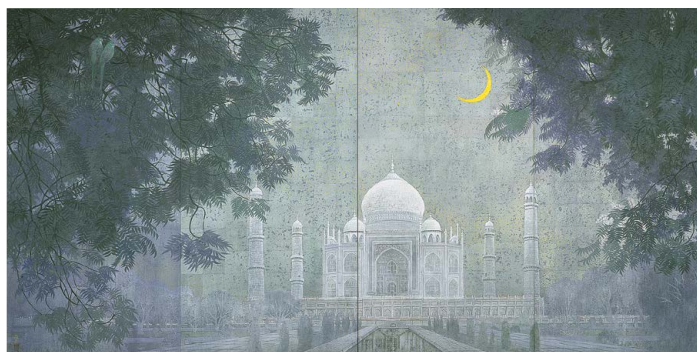
《不死鳥》部分 2022年～ 個人蔵



《寂光》1996年 茨城県近代美術館蔵



《ゼウス風に立つ》2020年 個人蔵



《星夜燦々》2001年 郷さくら美術館蔵

そしてそこに棲む生命の営みに、強く共感したからです。その稀有な自然を見つめることで作家は「人間と自然の共生」「生命の循環」をテーマにした壮大な物語を紡ぎだしました。

本展では、西田の過去の代表作とあわせ最新作《不死鳥》をさらに進化したかたちで一挙公開し、西田芸術の現在を紹介します。

みどころ

- ①本展のタイトルともなっている《不死鳥》は、完成作が縦2メートル、横90メートルを越す大作です。西田の画業においても過去最大サイズとなる作品で、現在は約50メートルが完成しています。まさに巨大絵巻ともいべき《不死鳥》を、会場では圧倒的なスケールでご紹介します。
- ②会期初日の4月20日(土)、5月25日(土)、5月26日(日)には、作家の西田俊英によるギャラリートークを開催いたします。
- ③本展は、県内初となる西田の個展です。茨城県では、再興日本美術院展覧会に対して1995年より天心記念茨城賞を提供しています。西田は第二回の受賞者であり、受賞が「大きな励みとなり、その後の画家として歩む上での勇気をいただいた」と語るなど、西田の芸術家としての歩みに茨城県は深く関わっています。本展では、《不死鳥》とあわせ、天心記念茨城賞受賞作の《寂光》をはじめとする過去の代表作も展示します。

[天心記念五浦美術館 副主任学芸員 塩田釈雄]

会 期：2024(令和6)年4月27日[土]～7月7日[日]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：月曜日、5月7日[火] ※GW中(4/29[月・祝]～5/6[月・振])は無休
入 場 料：一般1,000(870)円／満70歳以上500(430)円／
 高大生730(610)円／小中生370(240)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方は無料
 ※土曜日は高校生以下は無料
 ※4月27日(土)は満70歳以上の方は無料
主 催：茨城県近代美術館
後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
 産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
特別協力：公益財団法人DNP文化振興財団、
 株式会社DNPアートコミュニケーションズ
企画協力：迫村裕子(S2株式会社)
監 修：Team EIKO(石岡怜子、河尻亨一、永井裕明[N.G.inc.]

展覧会の概要

広告、舞台、映画など多岐にわたる分野で世界的に活躍したデザイナー・石岡瑛子(1938-2012)。本展では、没後10年を経て国内外から改めて注目が集まる石岡の、キャリア初期における資生堂やセンセーションを巻き起こしたPARCOの代表作をはじめ、東京を拠点にしていた1960-80年代の仕事を中心に、ポスターやCMをはじめ、グラフィックアートからスケッチまで、約500点を一挙公開します。

本展は、常に革新的なヴィジュアルを目指した石岡のデザイン哲学と、彼女が表現者として生涯にわたって磨き抜いた「I=私」を浮き彫りにします。「I=私」——自らを鍛錬し続けること、そして他者とのオープンな協働を通して培った「本当の“自分力”」——は、彼女のデザインを唯一無二のものとなりました。強烈な個性と飽くなき情熱が刻み込まれた石岡の「I デザイン」は今なお色褪せることなく、現代を生きる私たちの心の深いところに斬り込んできます。刺激的で、見る者を鼓舞しインスパイアする石岡瑛子の世界。会場では是非、その圧倒的な熱量を“体感”してください。

みどころ

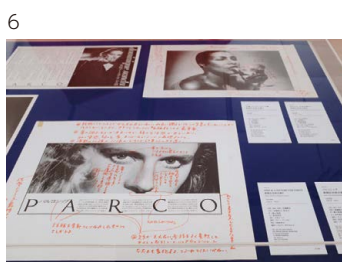
①「メッセージは常に時代の中で刺激的でなければならない」(石岡瑛子)

デザインによって人々に新しい価値観を提示した石岡。「太陽に愛されよう 資生堂ビューティケイク」では、当時高校生だった前田美波里を起用し、それまでの広告で主流だった楚々とした美人像を一新、生命力溢れる意志的な女性のイメージを打ち出しました。PARCOの一連のキャンペーンでは、性や国境、人種といった枠組みを打破すべく、「女たちよ、大志を抱け!」「裸を見るな。裸になれ。」「時代の心臓を鳴らすのは誰だ」など、インパクトのあるメッセージとともに型破りな表現を展開しました。大女優フェイ・ダナウェイが観音風の装い(衣装:三宅一生)で登場した「西洋は東洋を着こなせるか」は、後に石岡の作品集『Eiko by Eiko』の表紙を飾り、同書を見たアップルの創業者スティーブ・ジョブズは石岡の大ファンになったといわれています。

②妥協を知らない完璧主義者

細部に至るまで完璧な仕上がりを求めた石岡は、仕事のクオリティを上げるために協働するクリエイターやスタッフと対話を重ね、時には軋轢も辞さず丁寧にやりとりを繰り返しました。石岡が完成に向けてどのようなヴィジョンを抱き、いかに表現を磨き上げていったのか——スケッチやメモ、校正紙などから、彼女の体温や生の感情を感じ取るとともに、制作プロセスの一端をうかがい知ることができます。特に写真の色校正にびっしりと書き込まれた石岡の朱字(修正指示)は必見です。石岡の直筆の朱字の入った校正紙は、展示されるたびに、細かく厳しい指示に恐れおののく人、あるいは情熱と説得力に満ちた書き込みに感動する人が続出し、SNSでも話題をさらっています。本展の、意外なみどころの一つといえるでしょう。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]



- 1 「太陽に愛されよう 資生堂ビューティケイク」資生堂ポスター 1966年
- 2 「あゝ原点。」PARCOポスター 1977年
- 3 「西洋は東洋を着こなせるか」PARCOポスター 1979年
- 4 マイルス・デイヴィス「TUTU」レコードジャケット 1986年
- 5 「ドラキュラ」映画ポスター 1992年
- 6 石岡の朱字の入った校正刷
(「石岡瑛子 I デザイン」会場風景、北九州市立美術館)

事業レポート 美術講演会「自立する芸術家の矜持」 —キリスト教絵画における自画像の出現—

昨年11月25日「自立する芸術家の矜持」という演題で、筑波大学芸術系准教授、寺門臨太郎氏をお迎えして美術講演会を開催しました。寺門氏は令和2年度にも、当館の講演会講師をされ、とても好評でした。

講演の内容は、15世紀から16世紀にかけて、西洋絵画が宗教に奉仕する道具や装置から、芸術家の自己表明のメディアに移り変わろうとする流れを、芸術家による矜持の戦略的表明になぞらえて読み解こうとするものでした。

「ネーデルラント美術の光輝」と題する書籍で、寺門氏が分担執筆された《聖母を素描する聖ルカ》に関する論考等をもとに、画家がキリスト教の福音書記者のひとりに自らの姿を仮託し、新しい図像の形式を創造していった表現の変遷を、具体的な絵画作品を紹介しながら、わかりやすくお話していただきました。

講演時間は約80分、プロジェクターとパソコンを使用して、ヨーロッパの歴史的地図や映写作品リスト等の配付資料を交え、専門用語の説明や絵画の特徴、芸術家の思いや戦略的表明等の見所に焦点を当て、丁寧に解説していただきました。



《講師：筑波大学芸術系准教授 寺門臨太郎氏》

講演終了後約7分、質疑応答の時間を取りました。

質疑では、注文した絵画を受け取った聖職者の反応や対応について質問があり、近代の図像分析の方法論などとあわせて寺門氏の見解も含めて丁寧に回答していただきました。



《講演会全景》

この講演会には37名の参加者があり、皆さん熱心に耳を傾けメモを取られていました。参加者アンケートの感想には、

- ・美術作品の見解を時代背景や地理的事情を踏まえて理解でき、テーマに肉薄できた。
- ・具体的な作例をもとに説得力のある論考が展開され、聞き応えがあった。
- ・内容が濃く、ヨーロッパ史と絡み合っているキリスト教の歴史が聞けてよかった。
- ・理解が及ばなくなると適宜かみくだきの表現が入り、終始面白く聞けた。
- ・宗教画の目的を新たな思いで見ることができた。また、先生の話を聞きたい。

などと記載されており、大好評のうちに終了しました。

今回の講演により、少しでも多くの参加者が、美術史等への興味関心を高めるきっかけになっていただけたら幸いです。

美術講演会
自立する芸術家の矜持
—キリスト教絵画における自画像の出現—

令和5年11月25日(土) 13:30-15:00

講師：寺門 臨太郎氏 (筑波大学芸術系准教授)
会場：茨城県つくば美術館2階アルスホール
主催：茨城県つくば美術館 / 協力：筑波大学芸術系
入場無料

15世紀から16世紀にかけて、西洋絵画は宗教に奉仕する道具や装置から、芸術家の自己表明のメディアに移り変わろうとしていた。画家がキリスト教の福音書記者のひとりに自らの姿を仮託し、新しい図像の形式を創造した例をとりあげ、芸術家による矜持の戦略的表明を読み解こうとする。

10月17日(火) 9:00〜 筑波大学つくばキャンパス 2階アルスホール
つくば芸術系ホームページ「アートロード」の最上段メニューに、メニューが追加。参加者募集のページを「アートロード」に掲載。参加申し込みは、このページからお願いいたします。

「定員」80名
「事前予約」(50名まで)
「当日受付有り」(定員超過は、10名)

TSUKUBA
Museum of Art
つくば美術館

つくば市千代田 1-1-1 TEL: 029-359-3711
つくば市千代田 1-1-1 TEL: 029-359-3711
つくば市千代田 1-1-1 TEL: 029-359-3711

《美術講演会ポスター&チラシ》

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

MOMA
IBARAKI

先号に引き続き、プラチナパートナー企業のザ・ヒロサワ・シティ様と株式会社アダストリア様のCSRやメセナ活動をご紹介しますとともに、今年度からゴールドパートナーになられた関東鉄道株式会社様と、新たにゴールドパートナーにお迎えしたイオンモール株式会社様の活動もご紹介します。

ザ・ヒロサワ・シティ

「自然・健康・文化の郷(まち)」をテーマとし、110ヘクタールの敷地に、ゴルフ倶楽部、美術館、各種テーマパークの運営を通して、地域の発展に寄与する活動に取り組んでいます。

今後も、地域の皆さまと共に成長する郷(まち)として、様々な分野に挑戦して参ります。

令和6年2月11日(日・祝) 「ユメノバ」オープン

「陸・海・空・宇宙」が勢ぞろいした乗り物に関するテーマパーク「ユメノバ」は、子供たちが様々な体験を通して将来の夢を見つけることができる楽しいテーマパークです。

22の施設を提供してたくさんのお客様にお出で頂くことにより、地域の発展に取り組んで参ります。



科博廣澤航空博物館



レールパーク

温泉掘削を開始

ザ・ヒロサワ・シティを利用して頂く多くのお客さまのため令和6年夏までに1800mを掘り進める計画で、温泉掘削を開始しました。

今後は天然温泉を利用した温浴施設を整備し、地域の皆さまに郷(まち)づくりのテーマの1つである「健康」の増進を図り、楽しんで頂けますよう計画を進めて参ります。



温泉掘削現場

株式会社アダストリア

「ファッションのワクワクを、未来まで。」をサステナビリティポリシーとして掲げ、「環境を守る」「人を輝かせる」「地域と成長する」を重点テーマとして定めています。ファッション企業の強みを活かし、地域のお客さまや従業員にファッションを通してワクワクをお届けする活動を行っています。

すべての人が、ファッションをもっと楽しめる社会を創る「Play fashion! for ALL」



プロジェクトが手掛けた、
介護員のユニフォーム

インクルーシブファッションプロジェクト「Play fashion! for ALL」を通じて、障がいの有無、年齢、ジェンダーに関わらず、すべての人にファッションの楽しさをお届けする活動を行っています。障がいや持病がある方にも「着やすい服」を企画・制作し、展示会を通じてインクルーシブファッションへの理解を広げています。2023年には、茨城県水戸市の特別養護老人ホーム・救護施設もくせいにお声がけいただき、介護職員のユニフォームを制作しました。スタッフの皆さまの「着やすい」「着たい」の声を取り入れながら、福祉の現場からデザインを考え、地域福祉を支える方々の活力となるようなユニフォームが完成しました。

行政・協賛しているスポーツチームと協業し、グットコミュニティを実現する

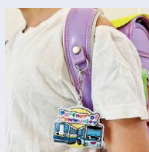


「MITO BLUE PRIDE with
ADASTRIA 2023」を実施

B.LEAGUE 所属の茨城ロボッツ、J.LEAGUE 所属の水戸ホーリーホックのオフィシャルスポンサーとして、スポーツ×ファッションの力で水戸市を盛り上げるための様々な活動を行っています。2023年には、水戸市、茨城ロボッツ、水戸ホーリーホックとともに、「MITO BLUE PRIDE with ADASTRIA 2023」を実施いたしました。期間中には、両チームで冠ゲームを実施したほか、水戸駅周辺でスタンプラリーやトーク&ライブイベントを行い、多くの市民の皆さまにご参加いただきました。アダストリアならではの取り組みでスポーツを盛り上げ、より多くの方々に水戸市の魅力をお伝えしています。

関東鉄道株式会社

2022年、おかげさまで創立100周年を迎えました。利用者をはじめご愛顧くださったすべての皆様に感謝いたします。これからも安全・安心・良質なサービスの提供に努め、「地域のふれあいパートナー」として地域の発展に尽くしてまいります。



交通安全反射材

沿線27市町の小学1年生に「交通安全反射材」を寄贈

この度、沿線の27市町の小学1年生に計18,380個の「交通安全反射材」を配布いたしました。当社をご利用いただいている皆様への感謝とともに、将来を担う子供たちの安全を守るために寄贈いたしました。自動車のライトが当たると自ら光る反射材で、ドライバーに子供たちの存在を早めに知らせることができます。



EVバス

EVバス、ハイブリッドバスを積極的に導入

当社では、二酸化炭素を一切排出しない電気動くEV（電気）バスを3両、電気とディーゼルエンジン双方で動くハイブリッドバスを27両それぞれ導入し、環境への配慮に努めております。EVバスは、災害時、電源供給車として活用できます。

イオンモール株式会社

当社は、「Life Design Developer」の経営理念のもと、持続的な社会の実現に向けて、地域・社会に貢献・活性化する取り組みを『ハートフル・サステナブル』として定め、各モールにて様々な活動に取り組んでいます。



約6mのクリスマスツリー

産学連携の取り組み イオンモール水戸内原「ミトウチ クリスマス」開催

イオンモール水戸内原では、産学連携の取り組みの一環として、地元専門学校文化デザイナー学院の学生によるクリスマスツリーのデザインコンペを実施。本年採用されたデザインは、赤や黄色のカラフルなりぼんをモチーフに、ツリーに雪が降り注ぐ銀世界を表現し、水戸の冬景色をイメージしました。クリスマスツリー点灯式には近隣幼稚園、保育園に通うお子さまをご招待し、子どもたちの歌声とともに大きな歓声が館内に広がりました。

[2023年11月1日(水)～12月25日(月)]



芋ほり体験会の様子

地元農家との取り組み イオンモールつくば「芋ほり体験会」開催

イオンモールつくばでは、地元農作物の地産地消促進を目的に、茨城県内の農家と連携し、地域にお住いの方を対象に、「芋ほり体験会」を開催。当日はお子さま連れのファミリーを中心に、多くの方々にご参加いただき、大変好評でした。今後も地元の方々と連携し、地域に根ざしたショッピングセンターを運営してまいります。

[2023年11月23日(木) 祝日]

経産省の研究会で当館企業パートナー制度が取り上げられました！

経済産業省が、日本のアートシーンの活性化に向けて2022年6月に設置した「アートと経済社会について考える研究会」の報告書で、ニューヨーク近代美術館の「ユニクロ・フリー・フライデー・ナイト」と当館の企業パートナー制度が紹介されました。

同研究会の南條史生委員（森美術館特別顧問）からは、「これからの美術館は経済との接触面を広げて経済社会の一員として発展することが求められる。」とのコメントがありました。

パートナー企業の皆様

| | | | |
|---------------------------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| 常陽銀行 | 関彰商事 | ひろさわ group ザ・ヒロサワ・シティ | ADASTRIA Play fashion! |
| 近代美術館友の会 | 関東鉄道株式会社 | AEON MALL | |
| 茨城県信用組合 | 茨城交通 | 心を込めて、信頼できるカーライフ 茨城一ヨタ | Jayanet since 1956 |
| Lily Academy Group 学校法人 リリー文化学園 | 物流で人々を幸せに。 沼尻産業 | Yakult 水戸ヤクルト販売株式会社 | |

INFORMATION

MOMA
IBARAKI

2月～6月のご案内

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《英国キュー王立植物園

おいしいポタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

2月23日【金・祝】～4月14日【日】

・講演会+植物園デモンストラーション「キュー王立植物園の植物画コレクション」

講師：山中麻須美氏（キュー王立植物園公認植物画家）

期日：3月10日【日】午後2時～午後4時

会場：地階講堂

定員：250名（要事前申込*、参加無料）

・紅茶ワークショップ「英国紅茶物語」

講師：先崎キヨ子氏（ティエエキスパート協会会長）

期日：3月3日【日】

午前10時30分～正午/午後2時～午後3時30分

会場：地階講座室

定員：午前午後各15名程度（要事前申込【Webのみ】*）、要企画展チケット及び参加費1,500円

・学芸員による鑑賞講座「おいしいポタニカル・アート～植物園、プラント・ハンター、大英帝国～」

講師：澤渡麻里（本展担当学芸員）

期日：3月16日【土】午後2時～午後3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（事前申込不要、参加無料）

・令和5年度第2回ミュージアムコンサート

パートナー企業プレゼンツ「イギリス音楽の愉しみ」

出演：河邊佑里（ヴァイオリン）、檀山百合子（チェロ）、宮野志織（ピアノ）

期日：3月15日【金】午後2時30分～ ※45分程度

会場：エントランスホール

定員：150名（要事前申込*、参加無料、要企画展チケット）

*定員に達し次第締切

《石岡瑛子1デザイン》

4月27日【土】～7月7日【日】

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ（後期）

2月22日【木】～4月29日【月・祝】

《日本の近代美術と茨城の作家たち 春から夏へ》

5月3日【金・祝】～6月19日【水】

《所蔵作品展 第2展示室》

《木村武山 須磨御殿杉戸絵》

2月22日【木】～4月29日【月・祝】

《「光」を見つめて》

5月3日【金・祝】～6月19日【水】

《アートフォーラム展示》

《茨城県名誉県民70年 横山大観、ここがすごい!》

12月26日【火】～4月14日【日】

《その他のイベント》

・家族でわくわくミュージアム

期日：2月16日【金】 乳児+大人（保護者）

2月17日【土】 幼児+大人（保護者）

2月24日【土】 小学生+大人（保護者）

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～

会場：2階アルスホール

料金：無料

3月9日【土】

・第10回「目のご馳走—おいしいポタニカル・アート」を味わう

【講師】澤渡 麻里（茨城県近代美術館首席学芸員）

《ビデオ鑑賞会》

時間：各日午後1時30分～

会場：2階講座室

料金：無料

2月24日【土】

・第10回「名画の秘密②」

《オランダの光と影》

～ルーベンス、レンブラント、ゴッホ、フェルメール～(30分)

《パリの夜と夢》

～ロートレック、マリー・ローランサン、モディリアーニ～(50分)

3月16日【土】

・第11回「名画の秘密③」

《浮世絵とジャポニズム》

～喜多川歌徳、東洲斎写楽、安藤広重、モネ、ホイッスラー～(30分)

《オルセー美術館》

～マネ、セザンヌ、モネ、ルノアール、ゴッホ～(50分)

《とびだす!カード作り つくぞうつくるぞう!》

3月24日【日】

・第7回「桜」をテーマにとびだす!カードを作ろう!

時間：各日午前10時30分～

会場：2階講座室

料金：無料

参加：当日受付（先着順・20名程度）※事前予約はございません。

一令和6年度の予定は未定—

《貸ギャラリー展》

2月6日【火】～2月18日【日】

・令和5年度卒業制作展 筑波大学芸術専門学群卒業制作展【総合】

2月20日【火】～3月3日【日】

・令和5年度修了制作展 筑波大学大学院 人間総合科学学術院

人間総合科学研究群 芸術学学位プログラム（博士前期課程）

修了制作展【総合】

3月5日【火】～3月10日【日】

・第23回チャレンジアートフェスティバル in つくば 【総合】

3月12日【火】～3月17日【日】

・第1展示室…沼尻正芳「ふるさと賛々」絵画展【絵画・彫刻】

・第2展示室…第17回グリーン・リブス展【絵画】

3月19日【火】～3月24日【日】

・第15回茨城一陽展【絵画・彫刻】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《水底に群れ、水面に集う》

2月17日【土】～4月14日【日】

・アーティストトーク

講師：松岡 歩氏（日本美術院特待）

期日：3月30日【日】 午後1時20分～（約30分）

会場：展示室 ※要企画展チケット、申込不要

・展覧会担当者によるギャラリートーク

期日：2月25日【日】 午後1時20分～（約30分）

会場：展示室 ※要企画展チケット、申込不要

・ワークショップ「水辺の生き物を描こう」

期日：3月9日【土】 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

定員：各回20名程度 ※要企画展チケット、当日先着順

・オープンワークショップ「水辺の生き物で美術館を飾ろう」

会場：展望ギャラリー ※無料、参加自由

《西田俊英展 不死鳥》

4月20日【土】～6月23日【日】

・アーティストトーク

講師：西田俊英氏（出品作家）

期日：4月20日【土】 午前11時～、5月25日【土】 午後1時～、

5月26日【日】 午前11時～（各日約60分）

会場：展示室 ※要企画展チケット、申込不要

《その他のイベント》

・日本画体験実技講座

講師：染谷香理氏（日本美術院特待・第29回【令和5年度】天心記念茨城賞受賞）

期日：2月17日【土】、18日【日】 午前10時～午後4時

会場：講座室

※本講座の申込受付は終了しております。

《映画会（五浦名画座）》

会場：講堂

定員：各回114名（当日受付先着順・3月までは事前予約可、

4月以降は不要）/無料

時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～

・3月10日【日】「最高の人生のはじめ方」108分

・4月14日【日】「そして父になる」121分

・5月12日【日】「西部の男」100分

・6月9日【日】「サスペンスの神様 ヒッチコック特集」

（午前の部）「バルカン超特急」98分

（午後の部）「新産」100分

《貸ギャラリー展》

・2月23日【金・祝】～3月10日【日】

令和5年度茨城県移動展覧会「茨城の美術セレクション」

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合があります。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851

水戸市千波町東久保666-1

TEL 029-243-5111

FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031

つくば市吾妻2-8

TEL 029-856-3711

FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703

北茨城市大津町橋2083

TEL 0293-46-5311

FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日に来館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます） ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜お知らせ＞

①「令和5年度茨城県芸術祭美術展覧会」が、9月30日（土）～10月15日（日）の期間に茨城県近代美術館及びザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されました。延べ49名の友の会会員の皆様が来館し、作品を鑑賞いたしました。

友の会会員の皆様は「友の会会員証」の提示により1回のみ無料でご覧いただけます。なお、会員証の提示がない場合は一般料金となりますのでご了承ください。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>

